

クラシック名古屋
TEL (052) 678-5310 FAX (052) 678-5330
<http://clanago.com>

プレイガイド
アイ・チケット
0570-00-5310

ナゴヤ劇場ジャーナル®

◆発行/マネージメント・プロ ◆編集/プランニングオフィス白壁 ◆協賛/クラシック名古屋

MP MANAGEMENT PRO

業務内容
 ①舞台イベントの企画・制作・マネージメント
 ②芸術コンサルティング
 ③タレントのマネージメント
 ④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行

株式会社マネージメント・プロ
〒464-0850 愛知県名古屋市千種区今池1-14-11 CASA LUZ302
TEL.052-735-3151 FAX.052-735-3152
E-mail : mpoffice@pa2.so-net.ne.jp

セントラル愛知交響楽団の美人コントラバス奏者・高柳安佐子と、イタリア人ギタリストジ・デッリーコが4月23日(午後7時)アートピアで「カプリブルー」を催す。

アートピアで第2回「プラティカフェ～カプリブルー」を開催する。アートピアのユニット名で「地中海の真珠」というわれるイタリアの観光名所カプリ島からイメージしたもの。2人が主に演奏

アートピアで「カプリブルー」は高柳シックを中心とした世界の音楽に精通。ジジはカンツォーネを世界中に広

年代に欧州で流行した古典的ジャズ。高柳は名古屋音大、愛知県立芸大を卒業後、ロシアと米国に留学。クラシックを中心に世界の音楽に精通。ジジはカンツォーネを世界中に広

年代に欧州で流行した古典的ジャズ。アートピアでのコンサートには、世界的ショーダンサーのスカーレット・ジェームス、DJのクリス・グレン、俳優のピエトロ・クリスト、オペラ歌手の足利真貴、ジャズ

アーティストが出演。日本では類のないパフォーマンスショードを繰り広げる。

アートピアは、ホフマン物語(オランピア役)に出演し好評を博した。

アートピアは、ホフマン物語(オランピア役)に出演し好

アートピアは、ホフマン物語(オランピア役)に出演し好評を博した。

アートピアは、ホフマン物語(オランピア役)に出演し好評を博した。

アートピアは、ホフマン物語(オランピア役)に出演し好評を博した。

アートピアは、ホフマン物語(オランピア役)に出演し好評を博した。

アートピアは、ホフマン物語(オランピア役)に出演し好評を博した。

舞台批評

平山素子「HAGOROMO」



©marinart

美しさと優しさ、天女の舞いに陶酔

静岡公演

「富士山」の構成資産でもある名勝「三保松原」の羽衣伝説をモチーフに自ら振り付けした新作の「HAGOROMO」水鏡の天女である。

美しい動きや仕草からは女性の生体や魔性も立ち上る。水がゆっくりと鏡のように張られていく舞台で、童女ながらに水しぶきを上げて戯れる姿

黒川泰子は、何事にも

青山桂子、岡山加代子らとともに「エルム」のオープニングを飾った伝説のシンガー。東京では

YFMでは「黒川泰子の音楽シネマ」のパーソナリティーを務めている。

音楽だけではなく、体力づくりや食生活にも注意を払う。ゴルフコンペやサークルのパーティなど、交流の場には時間の許す限り顔を出す。それが新たな活動につながる。「人生にムダなことは何一つない」がモットーだ。

4、正絃社。

特選映画

「セッション」

これほどまでに「壮絶」で「衝撃的」な音楽映画は見たことがない。2015年のアカデミー賞3部門（助演男優賞、編集賞、録音賞）を獲得した「セッション」（脚本、監督デイミアン・チャゼル）だ。

青年（マイルズ・テラー）が、名門音楽院で体験する壮絶日々。厳格非情な教授（J・K・シモンズ）助演男優賞）は、まるで鬼軍曹が新兵を容赦なくしきり抜くように、青年の心身を极限にまで追い詰めるのだ。

「もっと速く」「もっと激しく」。主奏者の座を得るために、青年は狂つ

たようだ。青年（マイルズ・テラー）は、名門音楽院で体験する壮絶日々。厳格非情な教授（J・K・シモンズ）助演男優賞）は、まるで鬼軍曹が新兵を容赦なくしきり抜くように、青年の心身を极限にまで追い詰めるのだ。

想定外のエンディングに震撼



「セッション」のワンシーン

の、限りなく実話に近いエピソードなのである。物語はすさまじい危機感、緊張感を保ったままクラライマックスの入する。ここで青年は、教授に痛烈なしっぱ返しをする。人間の執念とは恐ろしい。私は想定外のエンディングに感動し身震いした。この映画こそ、アカデミー作品賞にふさわしい傑作だと思うのだが

推奨公演

『バレエ』

豊田バレエ学校創立20周年記念公演王トワールバレエシアター定期公演

豊田洋舞の祭典5月2日(午後3時30分開演)豊田市民文化会館。

ロシアのダンサーを交え「眠れる森の美女」「バレエの情景」「フレスキーほかを上演する。全自由席1000円。TEL0566-552-1776。

『大正琴』

小池 真琴 大正琴小池流「アンサングルコンサート」5月6日(午後1時開演)芸術劇場小ホール。出演は

4月17日から伏見ミリオン座ほかで公開。(上野)

6月(午後1時開演)芸術劇場小ホール。出演は

1000円、TEL0567-2500円、小中学生(95)93368。

『民謡』

雅子理事長の師籍60周年

19日(午前11時30分開演)日進市民会館大厅。創流20周年と、瑞鳳

『日本舞踊』

西川 長秀 西川流「長寿の会」5月9日(午後0時30分開演)市民会館ビルジホール。来年卒寿を迎える長寿は古曲「高砂」を、

『瑞鳳流舞踊会』4月19日(午前11時30分開演)日進市民会館大厅。創流20周年と、瑞鳳

『日本舞踊』

西川 長秀 西川流「長寿の会」5月9日(午後0時30分開演)市民会館ビルジホール。来年卒寿を迎える長寿は古曲「高砂」を、

主役のジュリエットに
青木里英子、ロミオには
清水健太。ほかに安藤亜
矢子、碓氷悠太、山下恵理
奈、武藤天華ら総勢50人

舞台批評

「不戦」テーマに重厚な人間群像



バレエネクスト「ロミオとジュリエット」(撮影・中川幸作)

出色は水野のピアノ、中村の作曲



「巡礼の年」を演奏する水野道香

水野が演奏した「イタリアより⑦」は、ダンテの「神曲」「地獄編」からインスピレーションを得た作品で、いわゆる「地獄」の情景をダイナミックに描いた難曲。

は、草野心平の詩に曲をつけ、メゾン・ブラン、オーボエ、ファゴット、コンサーバトワーラ・バスンのカルテットによって演奏された。のどかで、ユーモラスなアーティジが出来上がった。

する昨日だけに、今作のテーマ「戦つてはならぬ」が際立った。「春の雪」INNOCENT RAY（エレファンターン）とともに、「NEXT」の財産として改訂、再演すべき作品である。

この会場は、舞台の周囲を客席が囲む円形劇場で、演劇の上演を前提に建設された2500席の小ホール。オペラの上演はいかがなものかと思つたが、演出の澤脇達晴（教授）は、劇場の規模と形能

「ナ
ル」で
ただけ
募集し
一間6
ぶ)。会

私にとっての「ジプシー」

「パプーシャの
い瞳」(4月11日
から名演小劇場で
上映)で、ナチコ

シーやダンスが大好きで、最近見た『ジープシー』の舞台は、演劇でもその血統を感じた。ビゼーのオペラ「カルメン」の、男をどこににするヒロイックもジープシードだ。

ゴヤ劇場ジャーナル
は発行をご支援いただけるサポート会員を
会員には小紙を毎日
前を掲載（希望者の
しています。会費は
6480円（税込）
けするほか、紙面に

青山 忠生 岡崎 保寿
秋田巳臺子 小倉ひろこ
阿久津紀子 越智 實
浅井 道雄 小野由加利
荒川 洋子 加藤 静志
伊藤 敬 金澤 志昌
出田 光代 かにえあさぎ
稻垣 舞比 尾山一郎
井上 初子 蟹江 伸一
斎 干龍 倉知 外アキラ
内田寿千代 小池 真琴
内田 寿典 榎原菜生主
内田 寿晴 佐藤美智子
内田 寿哉 澤脇達也
内田るり茂 島田 倫理
内田るり翠 白樺 八重
内田るり千鶴 瑞鳳 澄佳
内田るり登 鈴木 文枝
内田るり美 角田真優香
内田るり美 武市 孝
大島 明子 武本 京子
岡田 一男 竹元まさき
岡田 純奈 つづみあきこ

「ジャーナル」を応援します

ジップシー
な気持ち

され、カバ

吉野の歴史

、数万
殺された
各国で差
苦難の歴

する公
報を優先
いただき

松岡伶子バレエ団／かやの木芸術舞踊学園／春日井市日本舞踊協会
クラリネット専門店「クラリネットハーモニー」Tel 052-831-9833
特定非営利活動法人日本室内楽アカデミー 理事長 佐々木仔利子

音楽、朗読、人形の3者が持ち味

「人魚姫」

(2月28日・東文化小劇場) 写真。三者がうまくコラボして楽しめた。

興味津々で出かけた、弦楽四重奏と人形と語りによるファンタジックコンサート「人魚姫」

恋をするアンデルセンの童話を基に、米国出身のジェイソン・ティラーが作曲、バイオリンの森



随所にパロック音楽への意欲満ち

片岡 博明

「片岡博明フラウト・トラヴェルソリサイタル」(3月13日・電気文化会館) 写真はゲオルク・フィリップ・テレマン「四重奏曲集」計6曲を、パロック・バイオリン戸田薰、ビオラ・ダ・ガンバ福沢宏、チェンバロ山縣万里の共演で聴かせた。テレマンは同時代のビ



はいなが、パロックの大家。コンチエルト、ソナタ、組曲の3種類で、どれもパロック音楽らしくさ

わやかで好感が持てた。4人のバランスもいい。

だが、どれも似たような

曲想で違いがよく分からず、単調さは否めない。パロック音楽ファンでなければ退屈するだろう。珍しい作品だけに説明は必要だが、話が長いのが気になつた。

片岡は年内にあと3回テレマンの演奏会を開く。パロック音楽に対する意欲は大いに買いたい。

くはないが、登場したのは人魚姫だけ。できれば王子と2体で悲しい恋を演じてほしかった。今後、「人魚姫」がさらに進化するのか、ほかの話に転化するのか興味深い。

抜群に良かった。人形も、その扱いも悪くコラボして楽しめた。

人魚が地上の王子に恋をするアンデルセンの童話を基に、米国出身のジェイソン・ティラーが作曲、バイオリンの森

が作曲、バイオリンの森

が作曲、バイオリンの森